

第16期末（2020年2月12日）

基準価額 11,135円

純資産総額 579百万円

第15期～第16期
(2019年8月14日～2020年2月12日)

騰落率 12.1%

分配金合計 0円

(注) 騰落率は分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

ニッセイ米国株 テーマローテーション ファンド（3ヵ月決算型）

【愛称】 さきよみ

追加型投信／海外／株式

交付運用報告書

作成対象期間：2019年8月14日～2020年2月12日

第15期（決算日 2019年11月12日）

第16期（決算日 2020年2月12日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。


さて「ニッセイ米国株テーマローテーションファンド（3ヵ月決算型）」は、このたび第16期の決算を行いました。

当ファンドは、「TCWファンズⅡ－TCWテーマローテーション株式ファンド」への投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場している株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

なお当ファンドは、運用以来、長らくご愛顧いただきましたが、2021年2月12日に信託期間満了となります。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

 **0120-762-506** (コールセンター)

受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。

 <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

NISSAY
ASSET MANAGEMENT

東京都千代田区丸の内1-6-6

当ファンドは、投資信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で運用報告書（全体版）をダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【ダウンロード方法】 上記ホームページ→ファンド検索→ファンド名入力→ファンド詳細ページ→運用レポート→運用報告書（全体版）

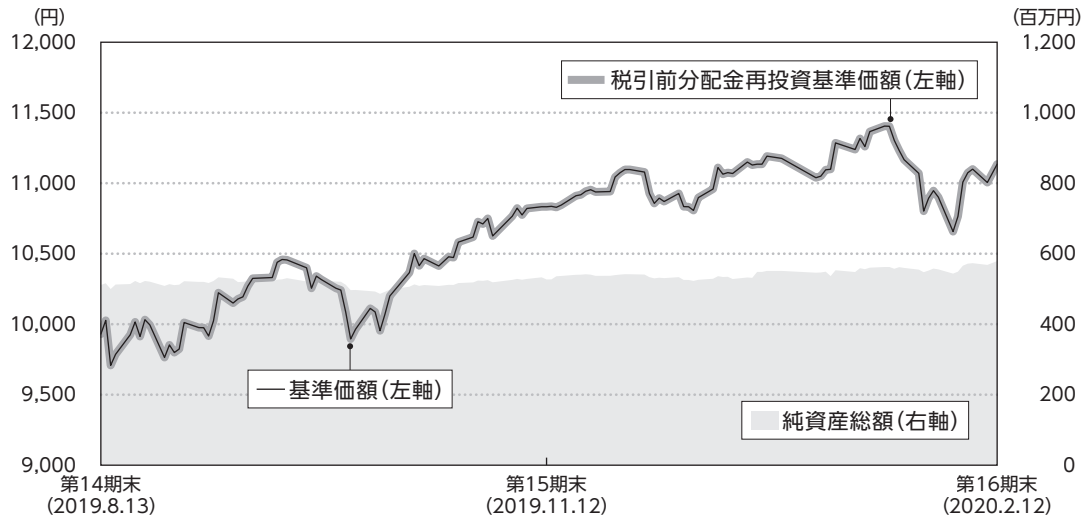
UD FONT

ユニバーサルデザイン（UD）の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

運用経過

2019年8月14日～2020年2月12日

基準価額等の推移



第15期首	9,930円	既払分配金	0円
第16期末	11,135円	騰落率（分配金再投資ベース）	12.1%

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前作成期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドはベンチマークを設けていません。

基準価額の主な変動要因

<上昇要因>

- ・当作成期半ばに米中貿易協議が進展するとの期待が広がり投資家のリスク回避姿勢が和らいだことなどから米国株式市場が堅調な動きとなり、その後も米中両国が貿易協議の第1段階での合意に達したことを受けて上値を伸ばす展開となったこと

<下落要因>

- ・当作成期末に中国で発生した新型コロナウイルスの感染拡大懸念により投資家のリスク回避姿勢が強まり、米国株式市場が下落し、米ドル安円高が進行したこと

1万口当たりの費用明細

項目	第15期～第16期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	71円	0.670%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は10,649円です。
(投信会社)	(23)	(0.219)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(47)	(0.438)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	(1)	(0.014)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他費用	1	0.005	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0.005)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
(その他)	(0)	(0.000)	・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	72	0.676	

(注1) 作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

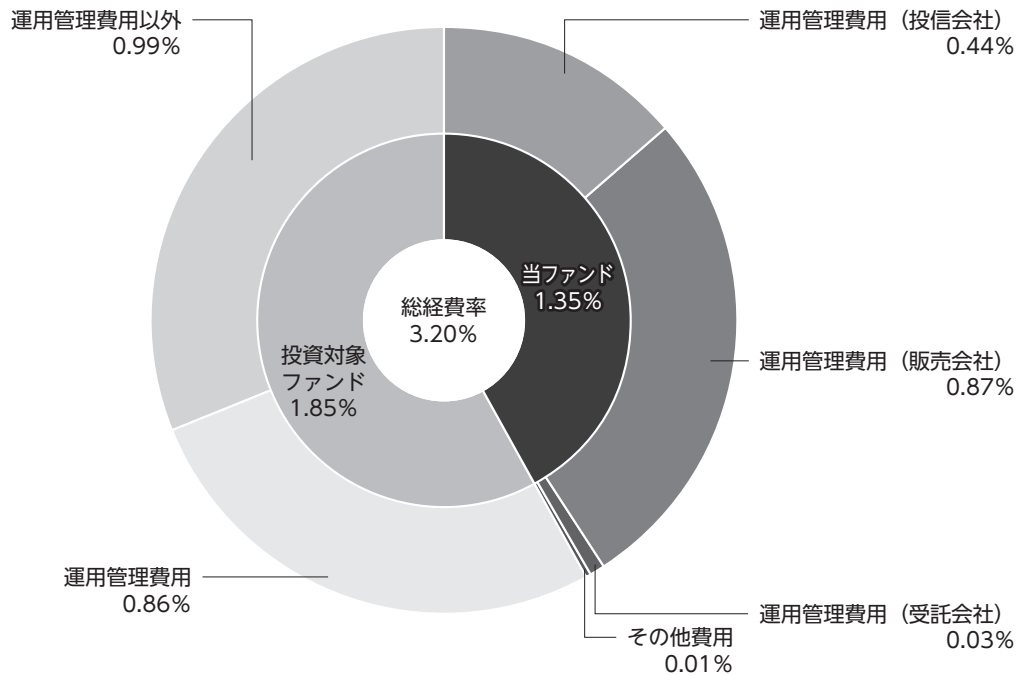
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている外国投資信託証券が支払った費用を含みません（マザーファンドを除く）。

（参考情報）

■ 総経費率

作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は3.20%**です。



総経費率（①+②+③）	3.20%
①当ファンドの費用の比率	1.35%
②投資対象ファンドの運用管理費用の比率	0.86%
③投資対象ファンドの運用管理費用以外の比率	0.99%

(注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

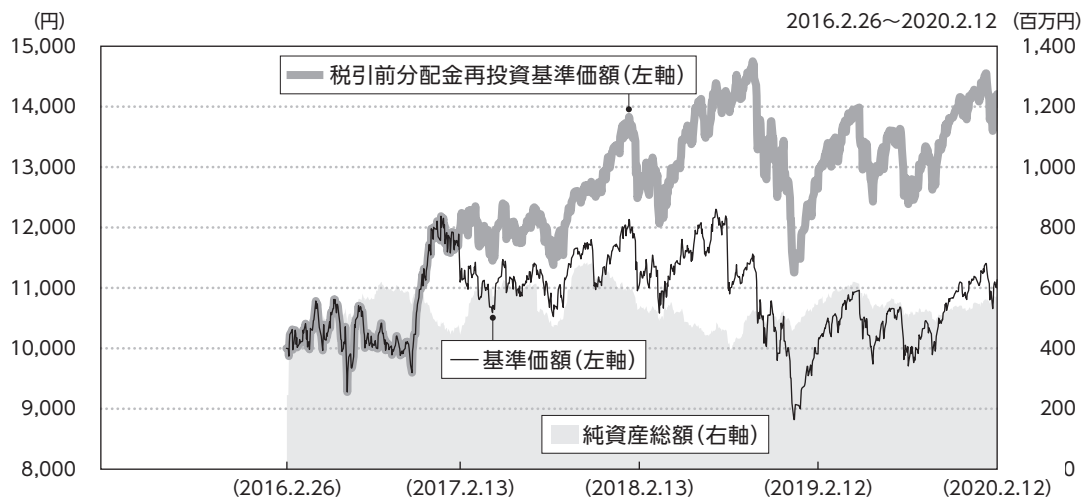
(注4) 投資対象ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資対象ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 当ファンドの設定日は2016年2月26日です。

(注2) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、設定時の基準価額にあわせて指数化しています。

(注3) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

決算日		2016年 2月26日	2017年 2月13日	2018年 2月13日	2019年 2月12日	2020年 2月12日
基準価額（分配落）	(円)	10,000	11,096	11,048	9,907	11,135
期間分配金合計（税引前）	(円)	—	900	600	1,300	0
税引前分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	20.0	5.0	0.4	12.4
参考指数騰落率	(%)	—	24.0	10.7	6.1	24.3
純資産総額	(百万円)	245	444	531	544	579

(注1) 参考指数はラッセル3000インデックス（配当込み、円ベース）です。なお参考指数の詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

(注2) 設定日の基準価額は当初設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

投資環境

■米国株式市況

【S&P500株価指数の推移】



(注) 指数はブルームバーグのデータを使用しています。

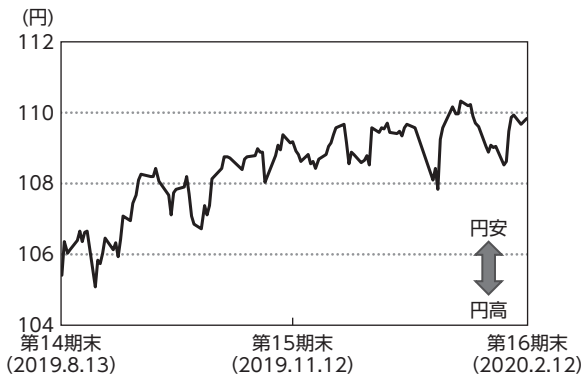
米国株式市場は上昇しました。

当作成期初は上値の重い展開となりましたが、当作成期半ばは米中貿易協議が進展するとの期待が広がり投資家のリスク回避姿勢が和らいだことなどから株価は堅調な動きとなり、その後も米中両国が貿易協議の第1段階での合意に達したことを受けて上値を伸ばす展開となりました。

当作成期末にかけては中国で発生した新型コロナウイルスの感染拡大懸念により投資家のリスク回避姿勢が強まり株価は一時下落しましたが、その後は堅調な米企業決算などが好感され、上昇基調で推移しました。

■為替市況

【米ドル／円レートの推移】



(注) 為替レートは対顧客電信売相場仲値のデータを使用しています。

為替市場は米ドル高円安となりました。

当作成期初は米中貿易協議に対する進展期待の高まりや米景気減速への過度な警戒感が後退したことなどから米ドル買い・円売りが優勢となり、その後も米中両国が貿易協議の第1段階での合意に達したことを受けて底堅く推移しました。

当作成期末にかけては新型コロナウイルスの感染拡大懸念により投資家のリスク回避姿勢が強まり米ドル売り・円買いが一時優勢となりましたが、堅調な米国株式市場を受けて米ドル買い需要が高まり、米ドル高円安となりました。

ポートフォリオ

■当ファンド

外国投資信託証券への投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場している株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。

■TCWファンズII－TCWテーマローテーション株式ファンド

*TCWアセット・マネジメント・カンパニーの資料（現地における当作成期末の前営業日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

徹底した調査・分析に基づき、短期（6ヵ月～1年程度）、中期（1年～3年程度）、長期（3年以上）と時間軸の異なる複数の投資テーマを選定し、各投資テーマに関連する企業の中からボトムアップ・アプローチで組入銘柄を厳選しました。

当作成期末時点での業種配分は、組入比率の高い順に、一般消費財・サービス（23.7%）、情報技術（19.5%）、資本財・サービス（19.3%）としています。

(注) 業種はGICS分類（セクター）によるもので、比率は対組入株式等評価額比です。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。

時間軸および投資テーマ別の組入比率は以下の通りです。

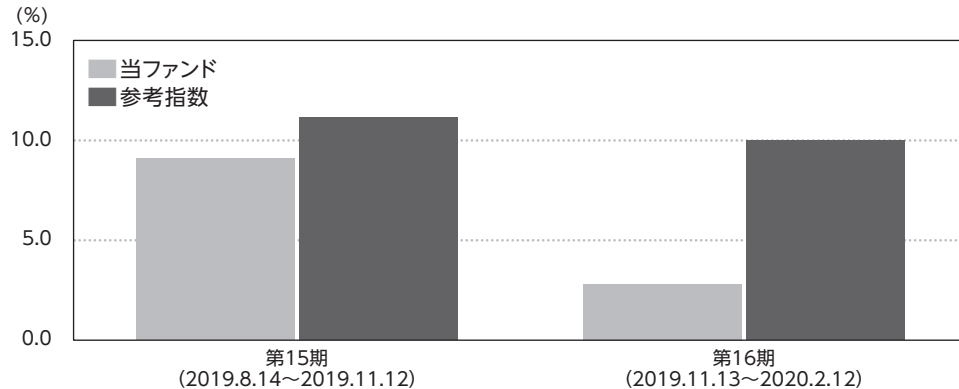
時間軸	投資テーマ	比率	注目点
短期	輸送	13.1%	米国の景気拡大が続いており、物流が活発化してきています。貨物を効率的に輸送するノウハウを保有している企業に着目します。
	米中貿易合意	11.3%	米中間の「第1段階」の貿易合意による関税引き下げで恩恵をうけると考えられる企業に投資を行います。
	住宅建築	9.7%	新築一戸建ての着工が最近急増しており、恩恵を受けると思われる住宅建築関連企業等に投資を行います。
	石油タンカー	5.1%	米中貿易合意で石油タンカーの需要が高まってきています。ファンダメンタルズが良好な企業に着目し投資を行います。
中期	AI革命	28.1%	AI革命から恩恵を受ける企業に着目します。
	E-Commerce向け倉庫	11.0%	E-Commerce向けの流通センターを保有する不動産関連企業に投資を行います。
長期	医療の技術革新	13.4%	免疫療法、遺伝子療法など革新的な医療技術や新薬を開発中の企業に着目します。
	宇宙技術	8.3%	次世代の技術を保有する宇宙関連企業に投資を行います。

(注) 投資テーマはTCWアセット・マネジメント・カンパニーの分類によるもので、比率は対組入株式等評価額比です。

■ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざしました。

参考指数との差異



当ファンドはベンチマークを設けていません。参考指数はラッセル3000インデックス（配当込み、円ベース）です。

当作成期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は+12.1%となり、参考指数騰落率（+22.2%）を下回りました。これは、金融セクターでの銘柄選択やエネルギーセクターのオーバーウェイト等がマイナス寄与したことなどによるものです。

（注1）基準価額の騰落率は分配金込みです。

（注2）参考指数の詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

分配金

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案した結果、見送らせていただきました。なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	第15期	第16期
	2019年8月14日～2019年11月12日	2019年11月13日～2020年2月12日
当期分配金（税引前）	—	—
対基準価額比率	—	—
当期の収益	—	—
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	1,103円	1,372円

（注1）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■当ファンド

今後も、外国投資信託証券への投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場している株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

■TCWファンズⅡ－TCWテーマローテーション株式ファンド

中国の新型コロナウイルスの感染拡大懸念、中東情勢の緊迫化、気候変動問題など2020年もさまざまな難題を抱えてスタートしており、進展をみせた米中貿易協議も政治的な環境を踏まえた双方の自国向けアピールと思われることから、一時的な対立緩和の可能性が高く、根本的な米中対立の隔たりは依然として大きい。ため、楽観しにくい状況が継続するとみられています。特に、今年秋の米大統領選挙を見据えてさまざまな地政学リスクが一段と高まる状況となっており、金融市場においては神経質になる局面が度々出てくることは十分に想定されます。中国の新型コロナウイルスの経済への影響は、中国政府が2003年の重症急性呼吸器症候群（SARS）流行時より適切に対応をしているとみられるものの、中国経済の世界経済に与える影響が大きくなっていることや感染拡大のペースが速いことなどから、消費などを中心に経済へのマイナス影響がSARSの時と比べて長く大きくなる懸念があります。そのため、これまでの米中貿易摩擦緩和の影響や製造業を中心とした投資循環の持ち直しの兆しから世界景気は回復に向かっていたものの、短期的には見通しが非常に不透明になったといえます。しかし、過去の経験則から新型コロナウイルスを適切に封じ込むことが出来れば世界的な打撃とはならないことや中国政府による経済対策をはじめ財政拡張が寄与する下で世界景気は下支えされると見えています。また、米国はインフレ動向が良好な水準で落ち着いており、米連邦準備制度理事会（FRB）を中心に主要中央銀行の金融政策が緩和姿勢であることは世界の株式市場を支える重要な要素になっていると判断しています。

このような環境下、当ファンドでは株価成長が期待できる魅力的な投資テーマの選定を行います。

■ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざします。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

組入ファンド

	第16期末 2020年2月12日
TCWファンズⅡ－TCWテーマローテーション株式ファンド	97.5%
ニッセイマネーマーケットマザーファンド	0.0

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

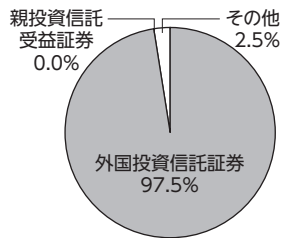
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

純資産等

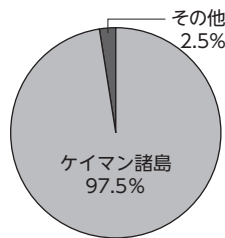
項目	第15期末 2019年11月12日	第16期末 2020年2月12日
純資産総額	526,934,850円	579,050,509円
受益権総口数	486,419,635口	520,032,645口
1万口当たり基準価額	10,833円	11,135円

(注) 当作成期間（第15期～第16期）中における追加設定元本額は106,113,470円、同解約元本額は100,825,109円です。

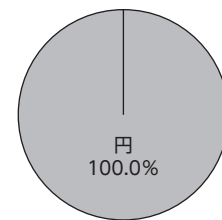
資産別配分



国別配分



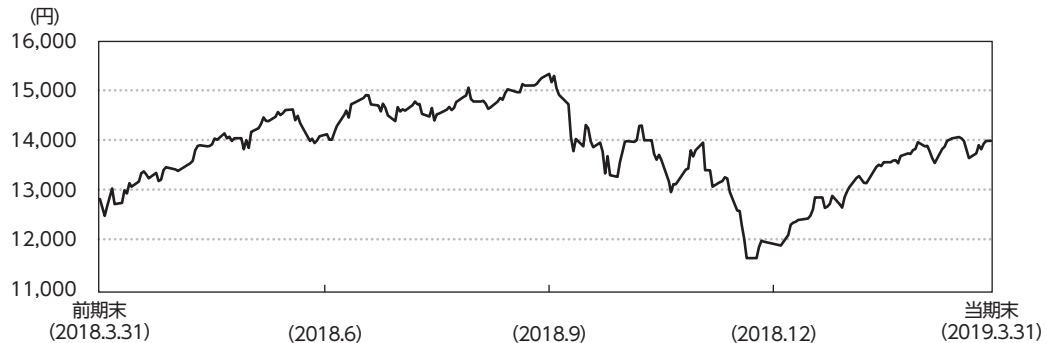
通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2020年2月12日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

TCWファンズⅡ－TCWテーマローテーション株式ファンドの概要

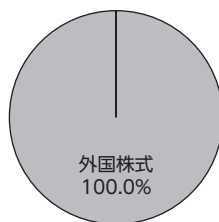
税引前分配金再投資基準価額の推移



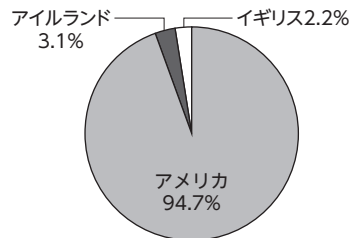
上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
salesforce.com, inc.	米ドル	4.4%
Union Pacific Corporation	米ドル	3.2
CSX Corporation	米ドル	3.2
Norfolk Southern Corporation	米ドル	3.1
Kansas City Southern	米ドル	3.1
Alphabet Inc. Class C	米ドル	2.9
Microsoft Corporation	米ドル	2.8
U.S. Bancorp	米ドル	2.7
Facebook, Inc. Class A	米ドル	2.5
Prologis, Inc.	米ドル	2.4
組入銘柄数		50

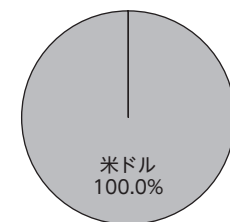
資産別配分



国別配分



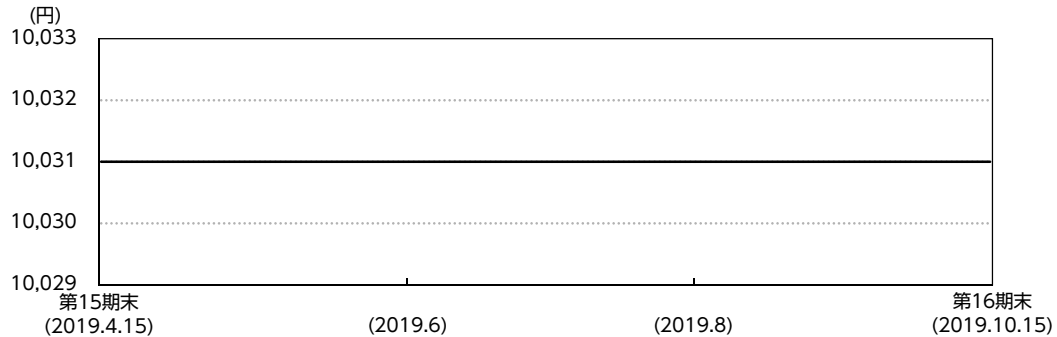
通貨別配分



- (注1) 税引前分配金再投資基準価額の推移は、外国投資信託証券の直近の決算期のものであり、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。
- (注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、外国投資信託証券決算日（2019年3月31日現在）のものであり、比率は外国投資信託証券の組入株式等に対する評価額の割合です。なお、国別配分はTCWアセット・マネジメント・カンパニーの分類によるものです。
- (注3) 1万口当たりの費用明細は、入手が困難であるため記載していません。
- (注4) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の投資有価証券明細表をご参照ください。

ニッセイマネーマーケットマザーファンドの概要

■ 基準価額の推移



■ 上位銘柄

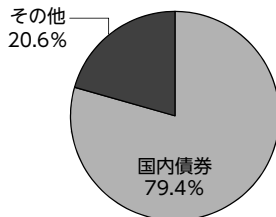
銘柄名	通貨	比率
第88回 共同発行市場公募地方債	円	20.0%
第122回 福岡北九州高速道路債券	円	19.9
第31回 兵庫県公募公債	円	19.8
第10回2号 宮城県公募公債(5年)	円	19.8
組入銘柄数		4

■ 1万口当たりの費用明細

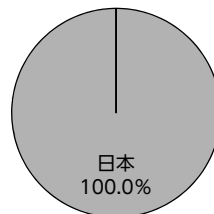
2019.4.16~2019.10.15

項目	金額
その他費用 (その他)	0円 (0)
合計	0

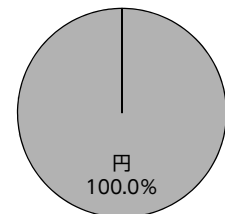
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



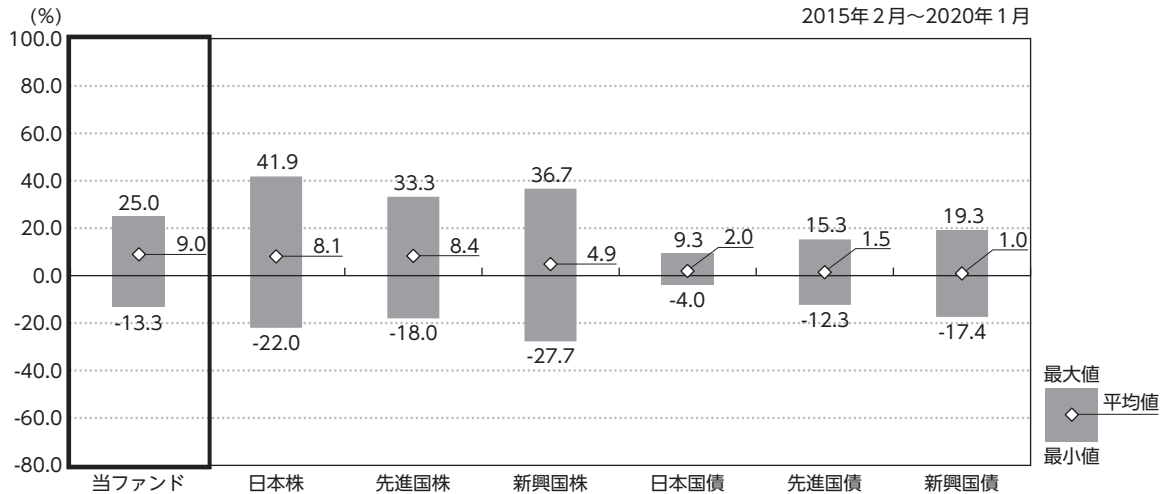
(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日（2019年10月15日現在）のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の組入有価証券明細表をご参照ください。

参考情報

■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- (注1) 上記は、当ファンドの騰落率（税引前分配金再投資基準価額騰落率）と代表的な資産クラスの騰落率を比較したものであり、各資産クラスは当ファンドの投資対象を表しているものではありません。
- (注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。
- (注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年分に満たないため、実在するデータのみ記載となっています。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

< 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

- 日本株・・・TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
- 先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
- 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
- 日本国債・・・NOMURA-BPI 国債
- 先進国債・・・FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
- 新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

- ・すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・海外の指数は、「為替ヘッジなし（対円）」の指数を採用しています。

*各資産クラスの指数につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

指数に関して

■ ファンドのベンチマーク等について

- ・ ラッセル3000インデックス（配当込み、円ベース）
ラッセル・インデックスは、ラッセル・インベストメント・グループが公表している指数で、その商標および知的財産権はラッセル・インベストメント・グループに帰属します。「ラッセル」はラッセル・インベストメント・グループおよびその子会社の総称です。ラッセルはラッセル・インデックスの利用から生じる事業活動・サービスについて一切の責任を負いません。またこれらの情報は信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性および完結性を保証するものではありません。

■ 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数について

- ・ T O P I X（東証株価指数）は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよびT O P I X（東証株価指数）の商標または標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- ・ M S C I コクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ M S C I エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ N O M U R A - B P I 国債とは、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任を負いません。
- ・ F T S E 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- ・ J P モルガン G B I - E M グローバル・ディバーシファイドは、J P モルガン社が算出する債券インデックスであり、その著作権および知的所有権は同社に帰属します。

お知らせ

■自社の実質保有比率

2020年1月末現在、当ファンドの主要投資対象であるニッセイマネーマーケットマザーファンドの信託財産において、当社は、当該マザーファンド受益証券を他のベビーファンドを通じて実質的に99.1%保有しています。当該実質保有分は、当社により他のベビーファンドを通じて解約されることがあります。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／株式		
信 託 期 間	2016年2月26日～2021年2月12日		
運 用 方 針	外国投資信託証券への投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場している株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。		
主要運用対象	ニッセイ米国株 テーマローテーション ファンド(3ヵ月決算型)	「TCWファンズⅡ－TCWテーマローテーション株式ファンド」 および「ニッセイマネーマーケットマザーファンド」	
	TCWファンズⅡ－TCW テーマローテーション 株 式 フ ァ ン ド	米国の金融商品取引所に上場している株式	
	ニッセイマネーマーケット マザーファンド	円建ての短期公社債および短期金融商品	
運 用 方 法	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ・外貨建資産への直接投資は行いません。 ・株式への直接投資は行いません。		
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。		